

令和6年度 古賀市立古賀東中学校 学校経営要綱

教育理念

共に学び合い 共に支え合い 共に鍛える

校訓

「自主」「創造」「敬愛」

1 学校経営の基盤

(1) 公教育としての学校〔法令遵守〕

日本国憲法、教育基本法、学校教育法をはじめとする教育関係諸法規、教育振興基本計画の方針、古賀市学校教育推進施策、並びに学習指導要領を基盤とする。

(2) 現代社会の要請に応える学校〔社会的責任〕

国が示す教育振興基本計画の方針を踏まえ、主体的にたくましく生きる力を育成するとともに、我が国の伝統と文化を尊重し、国際社会に生きる資質を養う。

(3) 保護者や地域の願いに応える学校〔状況把握〕

福岡県教育施策及び古賀市教育行政の目標と主要課題に則り、現在と未来を考え、生徒や保護者、地域及び学校の実態に即したものにす。

(4) 信頼される学校〔顧客満足〕

中立性を確保し、公共性、公益性をめざして、生徒の学力と進路の権利を保障し、保護者や地域と連携・協働する。

(5) 人権教育を推進する学校〔自他尊重〕

福岡県人権教育啓発基本指針、学校教育における人権に関する指導上の指針、古賀市人権施策基本指針に基づいて人権教育を推進する。

2 学校の教育目標

『志を持って自ら意欲的に学び、心豊かにたくましく生きる生徒の育成』

1990年代からの第3次AIブームによる技術革新が進む中、新型コロナウイルス感染症拡大も相まって社会の変化は加速度を増している。社会生活に正解がなくなっている中、子どもたちが現在と未来に向けて、たくましく生き抜く力を培って、自己の幸福と社会の発展を追求する力を育むことが学校教育に求められている。

これらの複雑で予測困難な時代に向け、生徒たちが受け身で対処するのではなく主体的に関わり、自らの可能性を発揮しながら多様な人々と協働して新しい価値を生み出したり、未知の問題を解決したりして「社会の変化に対応できる」人材を育てることを基本理念とした、古賀東中学校の存在意義を表したものである。

○「志を持つ」生徒

社会における課題を見据え、多様な人々と協働して問題解決のために貢献しようと自己を鍛え、主体的、対話的な学びを創造していく生徒を育てる。

○「自ら意欲的に学ぶ」生徒

将来の夢や目標を実現するために、課題を見つけ、解決に向けた力を自身で生み出し、主体的に努力し続ける生徒を育てる。

○「心豊かにたくましく生きる」生徒

優しさや厳しさ、真理を求める心、自然を愛する心をもって、変化の激しい社会の中でも挑戦し、仲間と切磋琢磨して夢や目標に向かって生き抜く行動がとれる生徒を育てる。

3 めざす具体像

(1) めざす学校像

- 〔自主〕 生徒が主体的に活動して成長を実感できる楽しい学校
- 〔創造〕 環境が整い笑顔で活気あふれる学校
- 〔敬愛〕 保護者・地域の負託に応え未来に向かって挑戦する学校

(2) めざす生徒像

- 〔自主〕 目標に向かって進んで学び合う生徒(自己指導能力の向上)
- 〔創造〕 友と共に自己実現に向かう生徒(心の教育の充実)
- 〔敬愛〕 自ら気づき、考え、行動し、発信する生徒(人権教育の促進)

(3) めざす教師像

- 〔自主〕 生徒を主語にした活動を主体的に判断して対応できる教師
- 〔創造〕 教育目標実現のために創造性を発揮して実践する教師
- 〔敬愛〕 生徒が自分らしく生きるために成長を支える教師

(4) めざす授業像

- 〔自主〕 「わかる」「できる」を実感して、自ら課題解決できる授業
- 〔創造〕 自他の考えを交流して、新たな考えを広げる授業
- 〔敬愛〕 多面的・多角的に事象を捉えて課題を解決する授業

(5) めざす家庭・地域との連携

- 〔自主〕 基本的な生活習慣・学習習慣の定着に協力する家庭・地域
- 〔創造〕 本校の教育を理解し、協働して子育てする家庭・地域
- 〔敬愛〕 社会をよりよく生きる価値に寄り添っていく家庭・地域

4 教育課題と経営課題

(1) 教育課題

① 基礎・基本の確実な定着による学力の向上

- ア) 基礎的・基本的な知識・技能の習得を図る。
- イ) 自分の考えをもって学びを深める。

② 自律して自立した行動力の向上(非認知能力の育成)

- ア) 自己有用感を自覚し、自尊感情を高くもって粘り強く行動する。
- イ) 自他を大切にすると人権意識の醸成を図る。

(2) 経営課題

- ① 学力の定着と学びに向かわせる授業づくり
- ② 安心して自己成長が実感できる学びの環境づくり
- ③ 特別支援教育の視点をもった教育活動の推進
- ④ 教職員のキャリアステージ指標に見合う指導力の向上

5 経営の方針

(1) 重点目標

『協働的に学び、自他の心を大切にして、粘り強くやり抜こうとする生徒の育成』

【成果指標】

① 学力の向上

ア) 令和6年度全国学力調査	標準化得点:国語100P以上、数学85P以上
イ) 令和6年度全国学力調査	四分位層のC・D層生徒の割合:国語4割以下、数学5割以下
ウ) 令和6年度福岡県学力調査	四分位層のC・D層生徒の割合:国語・数学4割以下
エ) 令和6年度標準学力調査	四分位層のC・D層生徒の割合:5教科各4割以下
オ) 授業評価アンケート	各教科3.2P以上

② 自律した人間関係形成力の向上

ア) 不登校生徒出現率	10%以下
イ) 不登校生復帰率	50%以上
ウ) 問題行動発生率	前年度比85%以下
エ) 不登校予防チェックリスト	6領域平均3.2P以上
オ) 行事後生徒アンケート	満足度90%以上

(2) 重点目標達成に向けた経営の重点と方策

異年齢集団活動であるブロック制の活動やコーチングを心がけた積極的な生徒指導に努めて、生徒自ら気づいたことを話し合い、考えたことを行動にすることができるようになってきた。東風キャラの誕生や応援のぼり旗の作成など、生徒たちの手による自治的な活動を重視した実践を積み重ねることができている。しかし一方で、学習習慣が定着せず学習課題に粘り強く取り組むことが難しい生徒が多数いることも否めない。困難な状況にも諦めることなく社会の変化に対応して果敢に挑戦するためには、主体的で粘り強く学びに向かう力を育成していく必要がある。

職員は、多様な生徒指導事案や適応促進の支援などの対応、各行事の取り組みにおいても、職員のあたたかな対応によって学校が保たれていることが本校の強みである。これまで、職員個々の指導力向上を図るために、授業改善研修や一般研修、分掌によるOJT推進を積み重ねてきた。今後、教職員のウェルビーイングのためにも働き方改革と人材育成を踏まえて、⑥仕事のやりがいと働きやすさを追求していく。

過去3年間のコロナ禍による制限された教育活動は、今日においてもその影響の尾を引いているところがあり、時間をかけた丁寧な取り組みから、短時間で効果的な教育活動が求められるようになった。在籍生徒は経験値が低く成功体験が乏しい状況ではあるが、3年生が1・2年生を率いて様々な体験活動や探求活動の取組みを成功させて自尊心を高揚させれば、生徒たちが自発的に考えて活動する上級生の姿に憧れ、生徒で創る学びの文化が受け継がれていくものと感じる。

全国学力・学習状況調査の生徒質問紙調査における、「普段の生活の中で幸せな気持ちになることはどれくらいありますか」の問いに、「よくある」と回答した本校生徒の割合は80%を超えており学校において多くの生徒が「幸せ」を感じながら生活していることがうかがえる。しかし、全国平均よりも4P低いことから決して高い数値とは言えず、誰一人取り残さない教育活動によって生徒の幸せにつなげていかなければならない。ここ3年間で特別支援学級が4学級から6学級、9学級へと増加して特別支援学級生徒が15%在籍する。通常学級における支援を要する生徒も増加傾向にある。そのため特別支援教育の視点をもって、一人一人の状態に応じた指導と支援を基に生徒が自分らしさを発揮しながら友だちや教師との関わりの中で自己実現の喜びを実感する環境を整えていく。

そこで本年度は、教師力の向上を図りながら「揃える」「整える」「徹底する」を継続した指導によって、生徒たちの良さをさらに生かして協働した教育活動を展開していく。そのため、①「人権・同和教育の促進による共感的な人間関係づくり」を全教育活動の礎として、自分や他が大切にされていることを実感できる環境を土台として、②「特別支援教育の視点による環境づくり」、③「主体的な学びによる学力の向上」、④「異年齢集団活動による非認知能力の育成」、⑤「積極的な生徒指導による自己指導能力の育成」を4つの柱として教育活動を推進する。

「正しい価値観で行動できる」集団、「目標に向かって粘り強くやり抜こうとする」集団に育て、いきいきと学びを楽しみ、安心できる『あたたかい学校』の構築に邁進する。

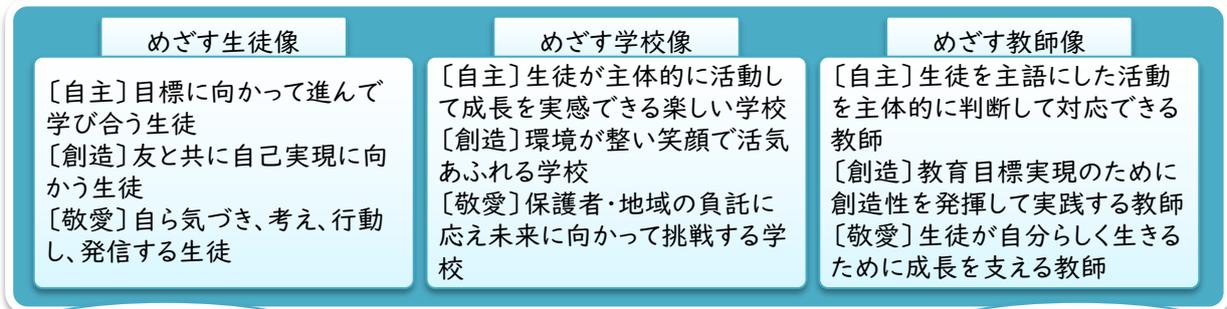
- ① 人権・同和教育の促進による共感的な人間関係づくり
 ア) 他の考えや気持ちがわかる、わかり合うためのコミュニケーション力を育成する。
 イ) 「体験活動」「言語活動」「探究活動」において主体的に他の生徒たちと協力して進めさせる。
 ウ) 人権教育副読本の「いのちのノート」「ともに生きる」の活用を充実させる。
 エ) 教職員の人権に関する知的理解と人権感覚を研ぎ澄ます研修を実施する。
- ② 特別支援教育の視点による環境づくり
 ア) 教育的ニーズを把握して、自立や社会参加に向けて主体的な取組ができる支援を図る。
 イ) 当該生徒の状態と状況の的確な見取りとフィードバックによる合理的配慮を充実させる。
 ウ) 協働的な学びが見える環境整美を充実させる。
 エ) 安心で安全な居場所(心的・物的)づくりを推進する。
- ③ 主体的な学びによる学力を向上させる授業づくり
 ア) 生徒の思考を働かせ、自己課題に応じた学びを推進する授業づくりを行う。
 イ) 四分位層 CD 層に対応する学習支援の強化を図る。
 ウ) 指導と評価の一体化を具現化する取り組みを実施する。
 エ) 授業と家庭学習をリンクさせた COMPASS 活用の定着を図る。
- ④ 異年齢集団活動による非認知能力の育成
 ア) 異年齢集団活動による自治活動の活性化を促進する。
 イ) 生徒会活動による生徒が創る学びを推進する。
 ウ) 意図的・計画的な道徳・特活・総学を実践する。
 エ) 小中接続の連携とCS連携の取組を推進する。
- ⑤ 積極的な生徒指導による自己指導能力の育成
 ア) 自己存在感を与え、自己決定の場を設定した教育活動を推進する。
 イ) 他者と協働しながら、「納得解」「最適解」を導くことができる道徳教育を推進する。
 ウ) 自己実現を図るキャリアパスポートを累積して成長を実感させる。
 エ) 生徒一人一人の人格を尊重して、個性の伸長を図る支援を行う。
- ⑥ 仕事のやりがいと働きやすさを追求する組織づくり
 ア) 職員の同僚性を発揮して見通しのある効率的な業務改善の推進を図る。
 イ) 校内OJTによる育成ステージに対応した研修を進める。
 ウ) 「揃える」「整える」「徹底する」の継続した指導を実践する。
 エ) 率先垂範・師弟同行・凡事徹底を実践する教職員のモデル化を実践する。
 オ) ワークライフバランスを意識して、安心して休暇取得できる体制を整える。
 カ) 超過勤務縮減に向けて「共有化」「効率化」「平準化」をめざした運営を行う。

(3) 経営イメージのフレーズ

- ① 経営のコンセプト…「花と笑顔があふれる あたたかい学校」
 ② 学びのスローガン…「学び合い」「鍛え合い」「励まし合い」「讃え合う」
 ③ 学びに向かう合い言葉…「気づき 考え 行動し 発信する」
 ④ 粘り強くやり抜く合言葉…「やるときはやる」「やることはやる」「あきらめずにやる」
 ⑤ 東風魂四訓の意識化…「あいさつ」「感謝の心」「時間厳守」「環境美化」

令和6年度 古賀市立古賀東中学校 経営構想図

学校教育目標 『志を持って自ら意欲的に学び、心豊かにたくましく生きる生徒の育成』



教育課題

経営課題

- ① 基礎・基本の確実な定着による学力の向上
 - ア) 基礎的・基本的な知識・技能の習得を図る
 - イ) 自分の考えをもって学びを深める
- ② 自律して自立した行動力の向上
 - ア) 自己有用感を自覚し、自尊感情を高くもって粘り強く行動する
 - イ) 自他を大切にす人権意識の醸成を図る

- ① 学力の定着と学びに向かわせる授業づくり
- ② 安心して自己成長が実感できる学びの環境づくり
- ③ 特別支援教育の視点をもった教育活動の推進
- ④ 教職員のキャリアステージ指標に見合う指導力の向上

重点目標 『協働的に学び、自他の心を大切にして、粘り強くやり抜こうとする生徒の育成』

成果指標	向学上の	ア) 令和6年度全国学力調査 イ) 令和6年度全国学力調査 ウ) 令和6年度福岡県学力調査 エ) 令和6年度標準学力調査 オ) 授業評価アンケート	標準化得点:国語100P以上、数学85P以上 四分位層のC・D層生徒の割合:国語4割以下、数学5割以下 四分位層のC・D層生徒の割合:国語・数学4割以下 四分位層のC・D層生徒の割合:5教科各4割以下 各教科3.2P以上
	向形人 上成間 力関 の係	ア) 不登校生徒出現率 イ) 不登校生徒復帰率 ウ) 問題行動発生率 エ) 不登校予防チェックリスト オ) 行事後生徒アンケート	10%以下 50%以上 前年度比85%以下 6領域平均3.2P以上 満足度90%以上

経営の重点

- | | |
|----------------------------|---------------------------|
| ① 人権・同和教育の促進による共感的な人間関係づくり | ④ 異年齢集団活動による非認知能力の育成 |
| ② 特別支援教育の視点による環境づくり | ⑤ 積極的な生徒指導による自己指導能力の育成 |
| ③ 主体的な学びによる学力を向上させる授業づくり | ⑥ 仕事のやりがいと働きやすさを追求する組織づくり |



校務運営計画へ